



1. 柳川竹ノ上遺跡 遠景（南東から）



2. 14区 X層包含層掘削状況（東から）



3. 14区 調査区土層堆積状況

●主な調査成果

今年度の調査では、丘陵地斜面部の上方に位置する調査区から縄文時代早期と中期初頭の土器が多く出土しました。標高は 256.5 ～ 267.0m付近を中心に分布していました。基本土層のX層としている縄文時代の地層からは、早期の土器がまとまって、出土していることが注目されます。全調査区を通じて地すべり、地割れの影響を受けた状態で遺構が発見されました。そして遺構と地割れの切り合いから、少なくとも3回の大地震による変動があったことがわかりました。

- 調査期間 2020年7月1日～2021年5月31日
- 事業者 中日本高速道路株式会社
- 調査原因 新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
- 時代 近世、中世、奈良・平安、弥生、縄文
- 所在地 秦野市柳川
- 遺跡位置 小田急小田原線渋沢駅の北西約4kmの丘陵尾根

